

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 99

学校名・団体名	北広島町立芸北中学校
HPアドレス	http://www.khiro.jp/geihoku-jh/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域の自然資源を活用したふるさとキャリア教育 の創造
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>小学校で、今一度里山の活用や意義を見直し、自分達の生活と結びつける学習「せどやま教室」を体験している。この学習経験をもつ子供達が中学生となり、さらなる地域資源の活用を見出し、保護者や地域と共に新たな取組として「茅プロジェクト」を立ち上げた。休耕田や閉鎖されたスキー場に生えているススキ（茅）を刈り取り、環境保全に努めるだけでなく、ススキに「茅」という「商品」としての付加価値をつける。芸北ならではの「ふるさとキャリア教育」の創造をめざしている。また、この取組が地域を活性化しようとする志がもてる子供達の育成につながる。</p>	

【活動内容】

芸北中学校では、「茅プロジェクト（通称：茅プロ）」という事業を立ち上げ、保護者や地域の方々、町教育委員会のご協力・ご支援を受け活動をはじめて3年目を迎える。「茅プロ」とは、芸北地域の休耕地等にたくさん生えているススキ（茅）を資源に、商品としての付加価値を加え、茅葺屋根の「茅」として活用する仕組みである。茅を刈ることで、地域の自然環境の保全になるだけでなく、商品化を図ることで、「経済」の仕組みも実体験しながら学ぶことができる。さらに、茅葺職人さんに茅を使ってもらうことで、茅葺屋根の文化継承にもつながる。生徒は自分達で茅を刈るだけでなく、保護者や地域の人々にもこの「茅プロ」への参加を広く呼びかけることで、この活動の意義や目的を広め、地域と共に長く継承できる活動としていきたい。

そういった活動を通して、生徒は課題解決する力や仲間と協働する力等いろいろな力を身につけながら、生まれ育った地域への関心を高め、愛着を深める。地域を活性化しようとする志を高めることにもつながることを期待している。

この2年間の「茅プロ」は、1年生が企画・運営を行い進めてきたが、今年度は授業時数の関係で、2年生が中心となって取り組むことにした。

1学期、修学旅行で地域資源を活用し地域活性化に取り組まれている漁業の町を訪れ、生徒自らも体験や取材を通して、その工夫や思い等を知り、自分達の「茅プロ」に生かせることはないかと考える。

そして、2学期に入り、1年生の時の取組を振り返りながら、「茅プロ」の意義や仕組みについて改めて全員で確認した。3年目を迎えた「茅プロ」は、2年生が4つの会社組織をつくり、社長・副社長・広報・経理の役割を分担し、どの会社がより多くの商品となる茅を刈ることができるかも評価の視点として新たなスタートをした。「茅プロ」の中心になって活動することを通して、「経済の流通の仕組み」を体験する。昨年度の体験から、「広報活動」や「茅刈り」、「茅金市場の運営」については一通り理解をしているが、今回は1年生が各会社の社員として入社し、一緒に目標達成のために活動する。「茅プロ」の目的や各会社の目標、その目標達成のための方法等について、各会社の2年生が1年生にしっかりと伝えていくことも、体験の重要なポイントとなる。

10月、「茅プロ」の意義を再確認するために、昨年度までは茅葺屋根の古民家に行き、その良さ等について体験を通して学んでいたが、今年度は、実際に茅葺屋根の古民家修復作業の体験をさせていただいた。自分達の刈った茅がどのように茅葺屋根に活用されるのかを、実際に体験できたことは貴重な経験となった。



【初めての茅葺体験】

○今日茅葺き体験をしてみて、改めてこの芸北には素晴らしい資源があるんだと感じました。茅を切ったり束ねたり屋根に挿したりしましたが、普通の学校では、たぶんどできないようなことばかりで、とても貴重な体験をしたなと思いました。茅は昔から使われているとても便利な資源なのに、それを使わなくなってしまったのはとてももったいないことです。大人になって海外や都会の友人ができたなら、ぜひこの茅葺きの家を見てもらいたいです。

次に、「広報活動」では、芸北地域全戸配布する「茅金市場（地域の方に、里山の茅を刈って持ち込んでいただき、地域通貨と交換する場）」についてのパンフレットや芸北地域の商店や公共施設等に貼っていただくポスターを、各会社の広報担当が集まり知恵を出しながら作成した。「茅プロ」の意義・目的・仕組についてや、持ち込んでいただく茅の規格（商品価値のある茅について）について広報する。また、町のケーブルテレビで宣伝していただくための原稿作成を行い、ケーブルテレビの取材も受けた。



【ケーブルテレビの取材を受ける】

そして、一番の山場は茅を刈る活動である。2年生が各会社に分かれて、社員である1年生に「茅プロ」の意義や仕組み、自分の会社の目標、商品となる茅の規格や茅刈りの方法につい

て説明をする。その説明を受け、社員全員が各自の活動目標を考え茅刈りの日を迎える。茅刈りの日は10月下旬と11月初旬の2回設定されている。生徒としては十分な準備をして迎えた第1回目であったが、思うように作業が進まず、刈り取った茅の量も少なく品質もいまひとつであった。そこで、2回目を迎える前にリーダーとなる2年生が、各会社で今一度作戦を練り直し、1年生に説明を行った。そのかいあって、第2回目の茅刈りはどの会社も第1回目よりも量・質ともに向上させることができた。「失敗」を次の活動に生かす、この学習スタイルがより生徒の力を伸ばすことになる。



【会社ごとに茅刈りを】

○私の個人目標は「一人一人が動ける環境を作る」でした。私は、役割分担をしたり、1年生と協力していく中で絆を深めたりして、この目標が達成できたと思います。今回の茅刈りでは、役割分担することで自分のすべきことができたと思います。また1回目よりも1年生と2年生の距離が縮んだと思うので、1年生も2年生に話しやすかったと思います。実際、1年生が2年生に助けを求めていた場面もありました。この取組で1年生と2年生がコミュニケーションを取れたことは、とても良いことだと思います。

最後の活動は、11月下旬に行った「茅金市場」の運営である。広報活動の成果が試される場でもある。生徒の心配は、開催時間前に荷台にいっぱい茅を積んだ軽トラが見えたことで、一気に吹き飛んだ。ここでも2年生が各役割を分担し、リーダーとなって1年生を動かしていく。1年生は初めての体験ではあるが、2年生のテキパキとした指示で動き、次第に要領をつかんでくると自分でも考えて動きはじめる。そして、今年度は新たな企画として、地域の方



【地域の方が茅の出荷を】



【せどやま券の発行を】

が持ち込んでくださった茅の、規格や量をチェックする間にお茶を出すことにした。昨年度経験している2年生だからこそ出たアイデアである。「寒い中、じっと待ってもらうのは申し訳ない。何か温かい飲み物を出してはどうか。」と考え、接待係を新たに設けた。思いもよらないお茶のおもてなしに、地域の方の笑顔や会話も増していった。昔懐かしいお話を聞かせていただいた生徒もいた。

○私は今回の「茅プロ」で「課題解決力」がついたと思います。茅刈りや茅金市場などでリーダーやまとめ役になったからです。1回目の茅刈りでは小学生にどのように教えたらいかが悩んでいたけど、茅茸職人さんの話を聞いて教えることができました。茅金市場でも役割分担をすることで、スムーズに進めることができたからです。

【期待される効果】

「茅プロ」は、生徒の自然環境保全に関わっての意識向上だけでなく、「茅をたくさん刈るにはどうしたらよいか。」「地域の方にこのプロジェクトにたくさん参加してもらうにはどうしたらよいか。」など企画・運営を考える中で、課題解決力や仲間と協働する力等を育むことができる。さらに、茅金市場での地域通貨換金、茅茸職人への茅の販売とそこで得た資金の活用という一連の流れを体験する学習プログラムとなっている。そのため、「社会における経済の仕組みについて実体験を通して理解できる。」「労働の喜びが体感できる。」といった多面的な教育、地域の特性を生かした「ふるさとキャリア教育」の展開が期待できる。

そして、生徒は、生まれ育った地域への関心や愛着を深めることができるとともに、地域を活性化しようとする志をも高めることができると期待できる。今後も、この「茅プロ」を学校だけでなく地域の方々にさらに広め定着させていくことで、芸北地域の新たなブランドとして「茅」が位置づくことも期待している。